

保育でのタブレット端末活用場面における取り組みやすさの評価

Evaluation of Utilization of the Tablet Device on Child-care by questionnaire

堀田 博史*, 佐藤 朝美**, 森田 健宏***

Hiroshi HOTTA*, Tomomi SATO**, Takehiro MORITA***

園田学園女子大学*, 愛知淑徳大学**, 関西外国語大学***

Sonoda-Gakuen Women's University*, Aichi Syukutoku University**, Kansai Gaidai University***

要約：本研究では、保育でのタブレット端末活用場面に注目して、14の遊びの取り組みやすさについて、全国1,000園を対象に質問紙調査を実施した。結果、「七夕の星座を見てみよう!」「子どもの活動を伝えてみよう!」の遊びで高評価を得た。また、保育でのタブレット端末活用経験の有無により、高評価の遊びの数が増加した。

キーワード： 幼児教育、タブレット端末、保育、取り組みやすさ、評価

1. はじめに

2017年に公表された教職課程コアカリキュラムにおいては、保育内容の指導法に「情報機器及び教材の活用を含む。」と明記された（教職コアカリキュラム, 2017）。幼稚園教諭には、具体的なメディア活用を想定して、保育を構想する方法を身に付けることが求められている。

筆者らは、2014年度に実施した全国1,000の幼稚園へのタブレット端末活用に関する質問紙調査で、保育者は以下の活動への取り組み意欲が高いことを明らかにした（堀田ら, 2014）。

- ・幼児が育てる小動物や植物をカメラ機能で撮影して、その様子を振り返る
- ・図鑑アプリで、幼児が興味・関心を持つ内容を調べる
- ・保育者が運動会の練習風景などを撮影・録画、プロジェクトで大きく投影して振り返る



図1 事例集の表紙

また、保育でのタブレット端末の活用場面を整理して、その特徴を示した「保育でのタブレット端末活用を促す事例集」を作成した（図1、堀田ら, 2017）。作成した事例集は、具体的な保育を構想できるよう、幼稚園教諭を支援するものである。

その中で、上記質問紙調査や文部科学省「学びのイノベーション事業実証研究報告書」での低学年の活動実践を参考に、保育での活用場面を以下のように整理している。

- A 一斉の遊び
 - A1 教師による教材の提示
- B 個別の遊び
 - B1 個に応じた遊び
 - B2 調査活動
 - B3 思考を深める遊び
 - B4 表現・制作
 - B5 家庭とのつながり
- C 協働の遊び
 - C1 発表や話し合い
 - C2 協働での意見整理
 - C3 協働制作
 - C4 園の壁を越えた遊び

そこで本研究では、整理された保育でのタブレット端末活用場面に注目して、その取り組みやすさについて評価する。

2. 研究の方法

2.1. 期間および対象

2018年7月初旬から8月中旬までの回答期間で、全国1,000園（幼稚園／国立44・公立274・私立356、こども園／公立125・私立201、計国公立443・私立557、各都道府県約22園ずつ抽出）に調査を依頼した。

2.2. 方法および調査項目

質問紙を郵送して、専用封筒にて返信を願った。回答者は特に指定せず、1園で1件の回答とした。調査項目は、(1)教職員数や在園児数、タブレット端末使用の有無などのフェイスシート、(2)事例集の遊びへの取り組み度合い、(3)活用メリット、(4)不安・心配、(5)保育と非認知的能力、等である。本稿では(2)に注目する。

3. 結果と考察

8月中旬までに280園より返信を得た。現在、保育者が保育でタブレット端末を使用している園は、検討中も含め41園(全体の約14.6%)、幼児が保育でタブレット端末を使用している園は、検討中も含め9園(全体の約3.2%)であった。

事例集に掲載されている10の活用場面、14の遊びを対象に、「1:非常に取り組みたい」から「5:全く取り組みたくない」の5段階で評価を得た。なお、評価は逆転項目で処理した。

結果、平均値3.0以上は、以下の4項目であった。

()は事例集掲載頁、(*.*)は平均を示す。

(5) B 個別の遊び/B1 個に応じる遊び

(3.2) 七夕の星座を見てみよう!

(6) B 個別の遊び/B2 調査活動

(3.0) 園のおすすめ図鑑をつくろう!

(7) B 個別の遊び/B2 調査活動

(3.0) 世界の「こんにちは」を知り、交流遊びをしよう!

(10) B 個別の遊び/B5 家庭とのつながり

(3.1) 子どもの活動を伝えてみよう!

14の遊びの場面に関して、一元配置の分散分析を行い、有意差($F(13,3698)=6.53, p<.01$)が見られたので、多重比較を行った結果、上記(5)と(10)が他の多くの遊びの場面との間で有意な差が見られた。(5)「七夕の星座を見てみよう!」は、タブレット端末で手軽に実現できるインターネット活用である。また、(10)「子どもの活動を伝えてみよう!」は、タブレット端末の可動性と画面の大きさ、見やすさを活かした園と保護者を繋ぐ取り組みである。

次に、保育でのタブレット端末活用経験が、取り組み評価に影響するかを知るため、保育者が保育でタブレット端末を使用している園(検討中も含む)41園を対象に、14の遊びを評価した。

結果、平均値3.0以上は、以下の9項目であった。

()は事例集掲載頁、(*.*)は平均を示す。

(2) A 一斉の遊び/A1 教師による教材の提示

(3.2) 番組視聴をきっかけに「だんごむし」を探そう

(3) A 一斉の遊び/A1 教師による教材の提示

(3.3) 運動会に向けて楽しい作品をつくろう!

(5) B 個別の遊び/B1 個に応じる遊び

(3.5) 七夕の星座を見てみよう!

(6) B 個別の遊び/B2 調査活動

(3.4) 園のおすすめ図鑑をつくろう!

(7) B 個別の遊び/B2 調査活動

(3.3) 世界の「こんにちは」を知り、交流遊びをしよう!

(9) B 個別の遊び/B4 表現・制作

(3.1) 遠足を思い出し新聞をつくってみよう!

(10) B 個別の遊び/B5 家庭とのつながり

(3.6) 子どもの活動を伝えてみよう!

(11) C 協働の遊び/C1 発表や話し合い

(3.1) 好きな食べ物なんですか?

(13) C 協働の遊び/C2 協働での意見整理

(3.1) 発見したことを友達や先生に伝えよう

14の遊びの場面に関して、一元配置の分散分析を行い、有意差($F(13,518)=2.30, p<.01$)が見られたので、多重比較を行った結果、上記(10)と他の遊びの場面との間で有意な差が見られた。

280園を対象に高評価が得られた事例は4項目だったのに対し、保育でのタブレット端末活用経験がある園では9項目であった。その中には「B 個別の遊び」だけではなく、「C 協働の遊び」が2項目含まれていた。事例集から、より具体的なイメージを広げるためには、保育でのタブレット端末活用経験が影響していると考えられる。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費 JP18H01064) の助成を受けたものである。質問紙調査にご協力いただいた園に感謝の意を表す。

参考文献

- (1) 教職課程コアカリキュラム (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/houkoku/1398442.htm, 参照日: 2018/09/26)
- (2) 堀田博史・松河秀哉・奥林泰一郎・森田健宏・深見俊崇・中村恵・松山由美子・佐藤朝美、『タブレット端末を活用した保育での取り組み内容の可能性』, 日本教育工学会第30回全国大会, pp.557-558, 2014年9月
- (3) 堀田博史・佐藤朝美・松河秀哉, 森田健宏, 中村恵, 松山由美子, 深見俊崇, 『保育でのタブレット端末活用を促す事例集の作成』, 第70回日本保育学会, pp.404, 2017年5月